



中国百科検定青年代表団に参加して 故宮、家具館から北出口まで

小川 涼子

8月25日、訪中国の最初の行き先は故宮博物院でした。あとから思い出した方向感覚や、行った場所の位置からすると、正面から入ってすぐ左へ曲がりました。

「正面から入ってすぐ左へ曲がった……！ まっすぐ行かないのかい！」

と思いましたが、

まあ、それはさておき、左へ曲がった先にあったのは家具館（南大庫）でした。

家具館に入ると、ふんわり

と良い香りがしました。使っている木材が紫檀とか黒檀とか、良い香りがするものだからだそうです。

狩りの時に使った折りたたみ式の椅子や、鹿の角だか骨だかで作った椅子がありました。

家具館を出ると、周辺には人通りがほとんどなく、写真を撮る何枚か撮りました。

「入口にあんなに人がいたのに……！ ここ、人気がない場所なの



……?!」

と思いました。

その後、正面から入って真すぐ来た場所あたりに合流しました。やっと故宮らしい故宮です！ 保和殿を覗き見るなどしながら、どんどん北へ北へと向かいました。

途中でお土産屋さんにも寄りつつ、どんどん進んでいるうちに見たのは、漢字の横に満州語が併記された扁額です。満州語併記の扁額は、内廷（皇帝の生活の場）に残っている



家具館近くの通路



朱漆描金龍紋交椅
狩りの時に使われた椅子
南大庫（家具館）

らしいです。外朝（皇帝の公務の場）の扁額にも昔は満州語が併記されていたらしいですが、いろいろあって今は残っていないということです。

さらに北へ進むと、景山と万春亭と観光バスが見えました。北の出口には、故宮の見学を終えて出てくる観光客を待ち構えるバスが行列をなしていました。バスチケットを売ると、ジュースを売る屋台が並ぶ道を通り抜けて、故宮をあとにしました。

※満州文字について

満州文字は、17世紀初頭に女真族の言語を表記するために作られた文字です。太祖ヌルハチの命により、まず無圈点満州文字が制定され、後に太宗ホンタイジの時代に圈点を加えた有圈点満州文字（従来の表記に加えて文字の横に点や丸〈圈点〉を添えて、満州語の二音が二文字で表記できるよう改良）が整備されました。モ



太和殿



大成門 漢字と満州語が併記された扁額

カラーインクジェットプリンターを岡山支部が購入

A3 ノビまで可
自動両面印刷
エコタンク方式
Wi-Fi Direct® 対応
スマートフォンやタブレット端末から印刷（Epson Smart Panel アプリ使用）

◆ この「おかやま」地方紙のカラー化が実現します！



PX-S6710T



題字 故 原田 親

第1079号

2026年

10月1日

日中友好新聞

日中友好協会
岡山支部

〒700-0054

岡山市北区下伊福

西町1-53

民主会館1F

086-250-5806

mail:

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

日中友好協会

倉敷支部

〒710-0056

倉敷市鶴形

1-9-30-1202

050-3440-1931

website:

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

nicchuokayama@ya

日頃のご支援にお応えして 秋の大還元祭

岡山シティホテル ディナーバイキングへのお誘い

これまで日中のイベントに参加する機会がなかなか取れなかった方、この機会には是非ご参加を！
バイキングは 2300 円ですが、会員の方には **1500 円**を、準会員の方には **1000 円**を還元致します。

主催 日中友好協会岡山支部（岡山市北区下伊福西町 1-53 民主会館内）
開催日 10 月 18 日（日）
会場 岡山シティホテル厚生町（岡山市北区厚生町 3-1-20）無料駐車場あり

- 夕刻 17 時 30 分～19 時までにお越し下さい。全体での開始時刻の設定はありません。終始ご自由にご歓談下さい。
- レストランは後払いが可能です。お越しになりましたら、すぐにレストランの中で待機している**当協会の会計までお越し下さい**。氏名等記名後還元金をお渡し致します。
- 還元金について：会員 1500 円（実質負担 800 円） 準会員 1000 円（実質負担 1300 円）
- ※ 会員・準会員以外の方も参加可能ですが還元金は出ません。ただし、その場で当協会にご入会いただくと、還元金をお渡し致します。
- ご都合に合わせてお帰り下さい。
- ※ 19 時以降は会計は退席致しますが、19 時を過ぎてもお食事はしていただけます。



お問い合わせ・お申し込み先：japan_china@icloud.com 090-3927-5411（大月）

※ 岡山シティホテル厚生町のバイキングは、予約無しでもご利用いただけますが、還元金準備の都合上、上記メールにてお申込み下さい。

第8回中国残留孤児は どうして生まれたのか？

真田 紀子

標記の会が 8 月 16 日（日）の 14 時から岡輝公民館パソコンルームにて行われました。当日参加者は 15 人でした。講師はいつもどおり青木康嘉先生です。

今回の青木先生のお話は、『黒い大地―七虎力開拓団―』竹内登良雄と中国残留孤児進一の人生―というタイトルでした。

内容を抜粋して紹介します。

一九三五年 1 月 3 日竹内登良雄は生まれた。現在 91 歳。美作町古町に在住している。4 歳の時に渡満した。

一九八五年 10 月、突然、岡山県

庁援護課から連絡があり、昭和 20 年 8 月 15 日旧満州で行方不明になった弟（当時 5 歳）とよく似た状況で身元の分からない孤児が第九次残留孤児訪問団にいますという連絡が入った。満州で行方不明になった弟については、戦後未帰還者として登録していたが、昭和 36 年に死亡宣告し、除籍していた。しかし、日中国交回復後、中国残留日本人孤児として今もまだ生きているかもしれないといううすかな生存に希望を託して、資料を県に提出していた。県庁へ足を運び、孤児の資料を見せてもらった。孤児の少年期の写真（中国の養父母が撮影したもの）と、手元に残っている弟の写真と比べてみると誠によく似ていた。また、兄が二人、姉が一人という家族構成は、全く同じだった。

満蒙（七虎力）開拓団の生活

昭和 7 年、日本政府は、中華民国より中国東北部を独立させ、新京（現在の長春）に皇帝溥儀を置き、「満州国」と命名した。政府は、日満両国の重要国策として「満州国」を五族協和の王道楽土とする。ことが、「日中紛争」を解決し東洋永遠の平和を確立することであると広く国民に啓蒙した。昭和 7 年に拓務省が 10 年間に 10 万戸という満州移民計画の大綱を作った。満州開拓が始まった。そして一九三六（昭和 11）年には広田内閣が十大国策の一つとして「百万戸移民計画」を発表し、本格的な移民政策が始まり、約 23 万人の開拓民が国内の小作人生活（貧困生活）から脱し、新天地満州に夢と希望を求めて移民した。そのような中で、父鐵太郎も新天

地を求めて満州へ渡る決意をし、一九三七（昭和 12）年に持っていた田畑や山を売って六百元（昭和 12 年当時）の資金を作り、父と叔父（父の弟）の角治と二人で開拓団の先遣隊として渡満した。一九三九（昭和 14）年に、父たちは一旦帰国した。角治は大陸の花嫁を募集し、結婚した。私達家族（母、姉、私、弟）は、父に連れられて 4 月に渡満した。登良雄はその時、まだ 4 才だった。夕暮れに三江省樺川県の閭家（えんじや）駅に着いた。閭家から私達の七虎力開拓団まで約 20 キロ離れていて、広い大地の中を馬車で揺られて行った。七虎力開拓団は、登良雄達の美作郷をはじめ岡山郷など出身地ごとの八つの郷で構成され、それぞれの郷は長方形の土塀に囲まれて一つの村のようになっている。

逃避行と弟進一の行方不明

一九四五（昭和 20）年 8 月 9 日のソ連参戦で、平和だった満州北部は一変して戦火の中に巻き込まれた。開拓団ではそれまでソ連軍が侵攻してくるとは全く予測していなかった。翌日に急遽 18 才から 45 才までの男子の兵役経験者と徴兵対象者に動員命令が出て応召された。10 日に本部に集結せよという命令が入り、急遽荷物をまとめ大車に積み込み、住み慣れた村を後にした。11 日に本部に集結した。会議の結果、五百人ほどの団員全員で決戦体制を敷き、本部を死守する方針が決まった。13 日に、関東軍が作戦を変更し、三江省をソ連に空け渡すので、ハルピン方面に避難せよと命令が出た。しかし、この時、最後の列車は出てしまっていて、列



青木 康嘉 氏

車での避難は不可能となり、歩いてハルピンへ向った。閭家（えんじや）駅付近には、4 つの開拓団（中川・読書開拓団ら）は武装して先に出発して七虎力開拓団が最後になった。竹内一家は、14 日の夕方頃、各郷単位で、必要な荷物を馬車に積んで出発した。

本部から 6 キロほどの所で夜明けを迎え、ゆるやかな丘を越えると敵（現地の農民や匪賊）の開拓団への襲撃が始まった。激しい銃撃戦が繰り広げられた。道路には 50 台を超える馬車が 1 キロ近く列をなしていたが、七虎力開拓団は完全に敵に包囲された。敵の銃弾はすさまじく、母たちは激しく応戦し、竹内の姉弟 4 人は溝の中であかまつていた。正午には大豆畑に這い上がって、そこで登良雄ら姉弟 4 人は寝込んでしまった。姉は、5 才の弟が迷子になるのを心配して用心のため手を負い紐で縛っていた。ところが、登良雄が目覚めると、弟がいな。この時まだ、母の元へ行っていると思っていた。自分たちの所にも死が迫っている事を感じた。母に弟の事を告げて銃弾が飛びかう中を竹内家族は必死で付近一帯を探した。竹内家族にとって非常につらく厳しい選択だったが、母はこのままでは全員死亡してしまうと判断し、美作郷の人達との行動を優先した。